

医学系大学院博士課程院生への図書館における論文執筆支援

三原由美子（順天堂大学 本郷・お茶の水キャンパス 学術メディアセンター）

Q1. バロンがなぜ閉鎖されたのか。バロンが提供していたようなサービスを大学図書館が提供すべきと考えているのか。

A1. バロン氏の死去により閉鎖されたと推察する。

Q2. 大変興味深い御発表をありがとうございました。質問紙調査の回収率が低いとのことでしたが、そもそも対象の656名は、アクティブな在籍状態なのでしょうか？休学等の大学院生が含まれていないのでしょうか？74名の回答が得られたのは、個人的にはきわめて貴重なことだと思いました。

A2. 教務課からの一斉メール配信により調査したため、休学等の学生が含まれているかどうかは不明。学生に一番注目される連絡方法なので、有効であったと思われる。

Q3. テキストの利活用について、具体的にどのようなことをされているのか。

A3. 医学部以外の院生（臨床検査技師）から、文献検索講習会の依頼があったため、事前にメールで聞き取りながらテキストを作成した。その際、他の職種でもキーワードを変更すれば役立てられるように試行した。

Q4. 論文の構造についてはどのように教えているのでしょうか？

A4. 図書館スタッフが提示するのは難しいが、出版社提供の講習会を実施したことがあり、事前打ち合わせでターゲットや内容のすり合わせを行ない、アンケートも利用者のニーズに寄りそうものとした。